

科目名：基礎看護学概論Ⅰ

授業科目	基礎看護学概論Ⅰ	講師名	佐藤 宏子	単位	1 単位	時 期
		実務経験	看護師として病院で複数年勤務後、教員として10年以上勤務 当校専任教員	時間	30 時間	1年次 前期
講師の実務経験と関連資格						
目 的	1. 看護の概念をとらえ、看護の位置づけおよび役割を認識できる。 2. 人間の特性と関連させて、看護の対象を統合体としてとらえる意味を説明できる。 3. 健康の概念について理解し、健康の考え方と看護目標との関連を理解する。 4. 看護の歴史の変遷を学ぶ。					
単 元 ・ 内 容						
1. 看護とは何か 2. 健康の理解 3. 看護の対象 看護理論と看護実践 4. 看護の機能と役割 看護実践の基準とその評価 5. 看護における法的側面 6. プロジェクト学習						
教科書 参考書	医学書院:系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学1 「看護学概論」 日本看護協会:「看護の基本となるもの」「看護覚え書」					
評 価 方 法	出席状況・学習態度・筆記試験・課題レポート		100点満点			

科目名：基礎看護学概論Ⅱ

授業科目	基礎看護学概論Ⅱ	講師名	佐藤 宏子	単位	1 単位	時 期
	看護倫理	実務経験	看護師として病院で複数年勤務後、教員として10年以上勤務 当校専任教員	時間	15 時間	1年次 後期
講師の実務経験と関連資格						
目 的	1. 倫理的感受性を養い、倫理的な看護を実践するために必要な知識を習得し、看護職者としての職業倫理について理解する。 2. 看護者が持つべき視点、求められる役割・方向性について考える能力を養う					
単 元 ・ 内 容						
1. 倫理の概念 1) 一般的な倫理の概念 2) 看護倫理の概念 3) 看護専門職の倫理規定 4) 「患者の権利」看護専門職に関わる法律と判例						
教科書 参考書	医学書院: 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学1 「看護学概論」 照林社: よくわかる看護者の倫理綱領					
評 価 方 法	出席状況・学習態度・課題レポート			100点満点		

科目名：基礎看護技術Ⅰ

授業科目	基礎看護技術Ⅰ	講師名	齋藤 佳苗	単位	1単位	時期	
	コミュニケーション、環境調整、感染防御	実務経験	看護師として病院等で複数年勤務後、教員として5年以上勤務 当校専任教員	時間	30時間	1年次	前期
講師の実務経験と関連資格							
目的	<p>【看護技術 コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概論と看護実践する際に共通する基本的な技術について理解する。</li> <li>2. 看護におけるコミュニケーションについて理解する。</li> <li>3. 看護における学習支援、指導について理解する。</li> <li>4. 安全の意義と事故防止対策の基本を理解し、援助できる。</li> </ol> <p>【環境】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境の意義を理解する。</li> <li>2. 看護における生活環境を理解する。</li> <li>3. 病床の作り方を理解する。</li> <li>4. 病床の整備を理解する。</li> </ol> <p>【感染防御】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創傷治癒過程と影響要因を理解する。</li> <li>2. 感染のメカニズム及び感染予防の意義と目的を理解する。</li> <li>3. 清潔と汚染、滅菌と消毒と洗浄を明確に区別し、感染予防の技術を習得する。</li> </ol>						
単 元 ・ 内 容							
	<p>【技術 コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術とは             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 技術とは</li> <li>2) 専門的技術とは</li> <li>3) 人間を対象とする専門技術とは</li> <li>4) 看護技術の修得</li> <li>5) 看護技術の基本原則</li> </ol> </li> <li>2. ケア・コミュニケーション技術             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護におけるコミュニケーションの意義と重要性</li> <li>2) ケア・コミュニケーションの基本的な心構え</li> <li>3) 看護実践におけるコミュニケーション技術</li> <li>4) コミュニケーションの実際</li> </ol> </li> <li>3. 学習支援、指導とは</li> <li>4. 感染防止の技術             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全の意義が理解できる。</li> <li>2) 事故防止対策の基本を理解し、援助できる。</li> <li>3) 感染予防の意義と原則を理解し、行動できる。                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①スタンダードプリコーション</li> <li>②手洗い</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p>【環境】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境の意義             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康的で快適な生活環境の意義</li> </ol> </li> <li>2. 看護における生活環境             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病室の屋内環境の調整</li> </ol> </li> <li>3. 病床の作り方             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病棟と病床の種類</li> <li>2) クローズドベッド</li> </ol> </li> <li>4. 病床の整備             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リネン交換</li> <li>2) 日常の病勢整備</li> </ol> </li> </ol> <p>【感染防御】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創傷管理技術             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 創傷処置</li> <li>2) 包帯法</li> <li>3) 褥瘡ケア</li> </ol> </li> <li>2. 感染防止の技術             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 滅菌・消毒とは</li> <li>2) 無菌操作</li> <li>3) ガウンテクニック</li> <li>4) 滅菌物・滅菌手袋の取扱い</li> </ol> </li> </ol>						
教科書 参考書	<p>医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学2 「看護技術Ⅰ」 基礎看護学3 「看護技術Ⅱ」 医学書院：「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」</p>						

評 方	備 法	【技術 コミュニケーション】	100点満点
		出席状況・学習態度・筆記試験	
		【環境】・【感染防御】	
		出席状況・学習態度・校内実習の参加度・筆記試験	

科目名：基礎看護技術Ⅱ

授業科目	基礎看護技術Ⅱ	講師名	岡村 裕美	単位	2 単位	時 期	
	食事・栄養管理、排泄、活動・安全・安楽	実務経験	看護師免許取得後、看護師として病院等で複数年勤務その後、教員として勤務	時間	45 時間	1年次 前期	
講師の実務経験と関連資格							
目 的	<p>【食事】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食べることの意味を理解し、食事援助の重要性を認識できる。</li> <li>2. 食事行動を援助するために必要な基礎的知識を理解する。</li> <li>3. 食事の援助に必要な基本技術が分かる。</li> <li>4. 援助を受ける人の精神的苦痛を理解し、常に配慮できる態度を身につける。</li> </ol> <p>【排泄】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排泄の持つ意味を考え、援助の重要性を理解する。</li> <li>2. 自然排泄を促すための援助技術を理解する。</li> <li>3. 床上における便器・尿器の使用上の基本的技術を身につける。</li> <li>4. 自然排泄を促しても排泄が困難な場合の援助技術を身につける。</li> <li>5. 援助を受ける人の精神的苦痛を理解し、常に配慮できる態度を養う。</li> </ol> <p>【活動・安全】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動と休息、睡眠の意義を理解し、援助が理解できる。</li> <li>2. 活動と休息、睡眠の援助に必要な基礎知識を理解する。</li> <li>3. 健康を保つための正しい姿勢や動作の基本知識がわかる。</li> <li>4. 活動に対する援助がわかり安全確保の基本技術ができる。</li> <li>5. 臥床患者のベッド上移動や体位変換の基礎的技術を修得する。</li> <li>6. 援助を受ける人の安全について理解でき、安全確保の必要性がわかる。</li> </ol> <p>【安楽】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安楽の意義と因子を理解し、援助がわかる。</li> <li>2. 健康を保つための正しい姿勢や動作の基本知識がわかる。</li> <li>3. 臥床患者のベッド上移動や体位変換の基礎的技術を修得する。</li> <li>4. 人間にとっての活動の意義を理解する。</li> <li>5. 活動援助に必要な基礎知識を理解する。</li> <li>6. 活動に対する援助がわかり、基本技術ができる。</li> </ol>						
単 元 ・ 内 容							
	<p>【食事】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食べることの意味と栄養の重要性</li> <li>2. 食欲に影響を及ぼす因子</li> <li>3. 健康障害時の食事の種類と食事に関与する職種</li> <li>4. 食事行動への援助の目的と方法</li> <li>5. 食事の援助</li> <li>6. 援助の実際             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 仰臥位で食事介助を受ける患者</li> <li>2) 両眼ガーゼ固定（全盲状態）で食事は自分で摂れる患者</li> </ol> </li> </ol> <p>【排泄】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排泄援助の重要性</li> <li>2. 排泄物の観察と重要性</li> <li>3. 排尿・排便を左右する因子</li> <li>4. 排泄・排便援助の目的と種類</li> <li>5. 自然排尿・自然排便に近づけるための援助</li> <li>6. 便器・尿器・おむつを用いた排泄の援助</li> <li>7. 便器・尿器・おむつを用いた排泄援助の実際</li> <li>8. 排泄後の清潔（陰部洗浄）</li> </ol> <p>【活動・安全】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動・休息の援助技術</li> <li>2. ボディメカニクスの意義、基本的体位と安定</li> <li>3. 患者の動かし方</li> <li>4. 活動への援助</li> <li>5. 安全確保の技術             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 転倒・転落防止</li> </ol> </li> <li>6. 休息・睡眠の援助</li> </ol> <p>【安楽】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安楽とその援助             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安楽を阻害する因子、安楽を促す方法</li> </ol> </li> <li>2. 物品を用いて安楽な体位を保つ</li> <li>3. ボディメカニクスの意義、基本的体位と安定</li> <li>4. 患者の動かし方</li> <li>5. 活動への援助</li> <li>6. 移動の援助             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ストレッチャー（輸送車）</li> <li>2) 車椅子</li> </ol> </li> </ol>						
教科書	医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学2 「看護技術Ⅰ」						
参考書	基礎看護学3 「看護技術Ⅱ」						
	医学書院：「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」						
評価方法	出席状況・学習態度・校内実習参加度・筆記試験			100点満点			

科目名：基礎看護技術Ⅲ

授業科目	基礎看護技術Ⅲ	講師名	①群馬バース大学 看護科 講師 佐藤 晶子 ②佐藤 佳苗	単位	2 単位	時 期	
	バイタル、フィジカル、 清潔、寝衣交換・全身清拭・洗髪	実務経験	①博士前期課程修了後、看護師・大学講師等の実務を経験②看護師として病院等で複数年勤務その後、教員として5年以上勤務	時間	60 時間	1年次	前・後期
講師の実務経験と 関連資格							
目 的	<p>【バイタル・フィジカル】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バイタルサイン、フィジカルアセスメントの意義を理解する。</li> <li>2. 体温、脈拍、血圧、呼吸の観察と測定の方法を理解する。</li> <li>3. 意識レベルの観察を理解する。</li> </ol> <p>【清潔】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 清潔の意義と必要性が理解できる。</li> <li>2. 臥床患者の全身清拭、洗髪、足浴、口腔ケアができる。</li> <li>3. 臥床患者の寝衣交換ができる。</li> <li>4. 清潔の援助を受ける対象の心理を理解し、配慮ができる。</li> </ol>						
単 元 ・ 内 容							
<p>【バイタル・フィジカル】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バイタルサインの意義 (20時間)</li> <li>2. 体温の観察と測定の方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体温の正常と異常</li> <li>2) 体温の測定器具と測定部位・測定方法</li> </ol> </li> <li>3. 脈拍の観察と測定の方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脈拍の生理</li> <li>2) 脈拍の異常</li> <li>3) 脈拍の測定部位と測定方法</li> </ol> </li> <li>4. 心拍の観察と測定方法</li> <li>5. 血圧の観察と判定方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血圧の正常と異常</li> <li>2) 血圧の測定部位と測定方法</li> </ol> </li> <li>6. 呼吸の観察と測定の方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸の正常と異常</li> <li>2) 呼吸の測定方法</li> </ol> </li> <li>7. 意識レベルの観察</li> <li>8. 褥瘡</li> <li>9. フィジカルアセスメント (10時間)             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康状態の評価の必要性</li> <li>2) 観察の視点と内容</li> <li>3) 身体各部の計測・観察</li> </ol> </li> </ol> <p>【清潔】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 清潔の意義             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生理的・心理的・社会的意義</li> <li>2) 皮膚の構造と生理機能</li> <li>3) 衣服の意義と病衣選択の条件</li> </ol> </li> <li>2. 清潔援助の方法と必要性             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全身清拭</li> <li>2) 足浴</li> <li>3) 洗髪</li> <li>4) 口</li> <li>5) 手浴</li> <li>6) 陰部洗浄</li> <li>7) 寝衣交換</li> </ol> </li> <li>3. 臥床患者の清拭・寝衣交換 (校内実習)</li> <li>4. 臥床患者の洗髪</li> <li>5. 足浴</li> </ol>							
教科書 参考書	<p>医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学2 「看護技術Ⅰ」 基礎看護学3 「看護技術Ⅱ」</p> <p>医学書院：「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」</p> <p>メディカ出版：「ナーシング・グラフィカ ヘルスアセスメント」</p>						
評 価 方 法	出席状況・学習態度・校内実習参加度・筆記試験			100点満点			

科目名：基礎看護技術Ⅳ

授業科目	基礎看護技術Ⅳ	講師名	齋藤 佳苗	単位	1 単位	時 期	
	看護過程	実務経験	看護師として病院等で複数年勤務後、教員として5年以上勤務 当校専任教員	時間	30 時間	1年次	後期
講師の実務経験と関連資格							
目 的	1. 看護過程とは何かを理解する。 2. 看護過程の段階とそれぞれの構成要素について理解する。 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づく看護過程を理解する。						
単 元 ・ 内 容							
1. 看護過程とは 2. 看護過程の成立とその特徴 3. V. ヘンダーソン看護の概念対象の把握 4. V. ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の概要 5. 看護過程展開の技術							
教科書 参考書	医学書院:系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学2 「看護技術Ⅰ」 スーベールヒロカワ:「看護過程に沿ったヘンダーソン看護論の実践」 「ヘンダーソンの基本的看護に関する問題リスト」 メヂカルフレンド:「患者さんの情報収集」 照林社:「プチナースブックス 症状別看護過程」						
評 価 方 法	出席状況・学習態度・校内実習参加度・筆記試験			100点満点			

科目名：臨床看護技術Ⅰ

授業科目	臨床看護技術Ⅰ	講師名	①秋澤 きみよ ②岡村 裕美	単位	1 単位	時 期
	経過別看護・症状別看護	実務経験	①看護師として病院等で複数年勤務②看護師として病院等で複数年勤務その後、教員として勤務	時間	30 時間	1年次 後期
講師の実務経験と関連資格						
目 的	1. 各健康レベルに対象の特徴を理解し、健康状態に応じた看護の考え方が理解できる。 2. 健康障害に共通する経過の概念と患者のニーズ、看護の本質について理解できる。 3. 主要な治療法の概念・目的・治療を受ける患者のニーズ、看護の基本について理解する。 4. 臨床の場の特徴と看護職の役割について理解する。					
単 元 ・ 内 容						
1. 健康上のニーズを持つ対象者と家族の理解をする 1) 健康上のニーズを持つ対象の捉え方 ①対象の理解 (1)人間と特徴 (2)統合体としての人間 (3)人間の成長・発達 ②家族の理解 2) 患者特有の心理の理解 3) 通院患者、入院患者とその家族の理解  2. 疾病の経過に伴う対象の理解と看護 1) 経過の概念 2) 急性期の特徴と看護の基本 3) 慢性期の特徴と看護の基本 4) リハビリテーション期の特徴と看護の基本 5) 終末期の特徴と看護の基本  3. 症状を伴う患者の理解と看護 1) 発熱 2) 嘔吐 3) 下痢 4) 便秘 5) 浮腫 6) 呼吸困難 7) 疼痛  4. 治療に伴う患者の理解と看護 1) 安静療法を受ける患者の看護 2) 食事療法を受ける患者の看護 3) 薬物療法を受ける患者の看護 4) 手術療法を受ける患者の看護  5. 死亡時のケアとグリーフケア 1) 死亡時のケア 2) グリーフケア						
教科書 参考書	医学書院:系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学3 「看護技術Ⅱ」 医学書院:系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学4 「臨床看護学総論」					
評 価 方 法	出席状況・学習態度・校内実習参加度・筆記試験			100点満点		

科目名：臨床看護技術Ⅱ

授業科目	臨床看護技術Ⅱ	講師名	非常勤講師 岡村 裕美	単位	1 単位	時 期
	与薬、注射・輸血	実務経験	看護師として病院等で複数年勤務その後、教員として勤務	時間	30 時間	2年次 前期
講師の実務経験と関連資格						
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践の基本となる基本技術を対象となる患者に、障害の特徴と状態に合わせた看護援助が実践できるように学習内容を通して、実践力を高める。</li> <li>2. 検査の意義が理解でき、検査における援助方法ができる。</li> <li>3. 安全な採血ができる。</li> </ol>					
単 元 ・ 内 容						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸、循環を整える技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 酸素吸入法</li> <li>2) 吸引</li> <li>3) 排痰法</li> <li>4) 吸入法</li> </ol> </li> <li>2. 症状、生態管理技術（検査の基礎的知識） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 検査の意義、検査の種類、検査に影響を及ぼす因子</li> <li>2) 検査における看護師の役割</li> <li>3) 検体の採取方法、取扱い</li> </ol> </li> <li>3. 採血の実際</li> </ol>						
教科書 参考書	医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学3 「看護技術Ⅱ」 医学書院：「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」					
評 価 方 法	出席状況・学習態度・校内実習参加度		100点満点			

科目名：臨床看護技術Ⅲ

授業科目	臨床看護技術Ⅲ	講師名	野田 正美	単位	1 単位	時 期
	呼吸循環を整える技術・ 創傷処置、包帯法	実務経験	看護師として病院等で複数年勤後、教員として勤務 当校専任教員	時間	30 時間	1年次 後期
講師の 実務経験と 関連資格						
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬の目的と与薬に伴う危険性、看護師の役割を理解する。</li> <li>2. 各与薬方法とその特徴、薬物による生体の反応を理解する。</li> <li>3. 安全に予約を実施するための基礎知識及び技術を習得する。</li> </ol>					
単 元 ・ 内 容						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法の意義</li> <li>2. 基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬物の適応別種類</li> <li>2) 薬物の吸引、排泄の機序</li> <li>3) 薬物の管理</li> </ol> </li> <li>3. 薬物適応（注射以外）の援助方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 内服薬の適応</li> <li>2) 口内錠の適応</li> <li>3) 坐薬の適応</li> <li>4) 皮膚その他への適応</li> <li>5) 吸入</li> </ol> </li> <li>4. 注射の援助方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 注射器、注射針の種類と構造</li> <li>2) 皮下注射について</li> <li>3) 筋肉内注射について</li> <li>4) 皮内注射について</li> <li>5) 静脈内注射について</li> <li>6) 点滴静脈内注射について</li> <li>7) 輸血について</li> </ol> </li> <li>5. 安全確保の技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 誤嚥防止 他</li> </ol> </li> </ol>						
教科書 参考書	医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学3 「看護技術Ⅱ」 医学書院：「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」 医学書院：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論					
評 価 方 法	出席状況・学習態度・校内実習参加度・筆記試験			100点満点		